進捗報告書（実行団体）

5

● 提　出　日　：　2022　年　10　月　16　日

● 事　業　名　：　未来につなぐ持続可能な地域社会を目指した、子ども・若者とその家族のための「生きるを支える」多機能的支援事業

● 資金分配団体　：　NPO 法人　ETIC

● 実 行 団 体　：　一社）小豆島　子ども・若者支援機構

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1.子ども・若者やその家族が、困りごとにあった際に安心して声を出せる場所や人とのつながり。	・相談（困りごと等）回数やニーズ（思いや夢などを含む）の発出回数や頻度の増加	'自分が抱える困りごとや想いを自由に発出しても安全に護られる場があるという認識が持てる また声を出せる場所や人とのつながりができている。	2023 年 3 月	・相談（困りごと等）回数→増加 ・ニーズ（思いや夢などを含む）の発出回数→増加 ・頻度→増加 ※下記参照	2
1-2 子ども･若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者が増加して、当事者が孤立することなく、サポートを受	'子ども･若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者の増加。 地域のサポートの回	'ボランティアが少しずつ増えていく。 協力団体や協力者が少しずつ増えていく。 その結果、本人や他機関、	2023 年 3 月	・子ども・若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者や地域のサポートの回数 →支援者や支援団体、また、協力	2

けられるようになる。	数。	地域から相談が増えている状態。		者やサポート回数が増加している 6/23　シングルマザーの H さんと、弁護士のオンライン相談を受ける ※下記参照	
1-2 子ども・若者とその家族を中心にした地域交流の機会の創出。	交流イベントの開催機会	子ども・若者とその家族を中心に、誰でも気軽に参加できる場が存在する状態（一時的なもの・恒常的なもの　等）	2023 年 3 月	交流イベントの開催機会 220522　地域イベント参加アースデイ小豆島 220604　オリーブビーチクリーン 220610　タケさんから 220611　昭和の時代の柏餅 220618　ピエロック一座 220625　感謝の会　サンドウィッチとパフェ 220628　寄付を頂きました 220713　てんぐさ採り～がウニ大収穫 220729　きのした大サーカス 220812　BBQ@池田北条 220814　Hちゃん預かり@白崎海岸＋肥土山大門 220815　研修生（OHくんから） 220821　福武ハウス～映画村 220823　夏の思い出 220827　瀬戸内ハンモック 220905　見学くすくす(善通寺市子育て支援団体見学) 220910～11 SCBS島風サンセットクルーズ 220919　夏の思い出 2 220919　嵐の中の仔猫 220924　タコパ＆鍋 221001　ところてん くさかべハロウィン2022	2
2-1 当法人や民間やボランティアを含む複数機関による支援会議が頻繁に行われ、包括的な支援ができるようになる。	複数機関による支援会議の回数の増加。 複数機関による支援会議に参加する支援者、団体の増加。	個別のケースに対する支援ネットワークができ、行政や教育機関等と連携して、より丁寧な個別のサポートが行われるようにな	2023 年 3 月	・複数機関による支援会議の回数→増加 →小豆島　子ども・若者支援地域連絡会(通称:「みんなの島のおむすびネットワーク」7 団体 16 人参加)内で、送迎サポート専属チ	2

	他機関による支援会議を行って、包括的な支援を行ったケースの数。	る。		ーム「SHT(小豆島ハートフルトランスポーターズ)」が発足した。 ※下記参照 ・複数機関による支援会議に参加する支援者、団体の数 →香川県困窮者支援連絡協議会に参加 ・他機関による支援会議を行って、包括的な支援を行ったケースの数 →維持	
2-2 本人や家族や連携機関や地域など多方面からの相談が増え、ステークホルダーとの必要な連携支援が行われるようになる。	相談件数。 個別支援の回数。 ステークホルダー（連携先）との連携回数。	切れ目のない支援を目指し、フォーマル/インフォーマル間で、連携的な支援が流れることにより、子どもが発信しやすくなり、子どもの利益が護られる状	2023 年 3 月	・相談件数。 ・個別支援の回数。 ・ステークホルダー（連携先）との連携回数。 →増加 ※下記参照	2

		態。			
2-3 子ども･若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者が増加して、当事者が孤立することなく、サポートを受けられるようになる。	'子ども･若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者の増加。 地域のサポートの回数。	'ボランティアが少しずつ増えていく。 協力団体や協力者が少しずつ増えていく。 その結果、本人や他機関、地域から相談が増えている状態。	2023 年 3 月	・子ども・若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者や地域のサポートの回数。 →増加 ※下記参照	2
3-1 子ども食堂や居場所活動への関心や理解が深まり、参加者やボランティアや協力者が少しずつ増える。	子ども食堂への参加やボランティア希望などの問い合わせ数と参加人数。 子ども食堂の開催回数。	草壁と土庄の二か所で定期的に子ども食堂を実施し、ボランティアが集まり、支援が必要な子どもたちがより多く参加できるようになる。	2023 年 3 月	・子ども食堂への参加やボランティア希望などの問い合わせ数 ・参加人数。 ・子ども食堂の開催回数。 →増加	2 4
3-2 子どもの福祉に関する講座や勉強会が定期的に行われて地域の人も参加するようになる。	講座や勉強会の回数。 参加者の数や幅。	2020 年に行われる連続講座に多様な人が集まり、次年度以降も定期的に講座や勉強会が行われるようになる。	2023 年 3 月	・講座や勉強会の回数。 ・参加者の数や幅。 →増加 「子育て座談会」50 人 「好きな生き方してみよう」15 人 「だからからだのこと」10 人 定例 PC 教室(約月 2 回)	4

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
相談回数の増加について ・相談件数。　・個別支援の回数。　・ステークホルダー（連携先）との連携回数。 ※下記表参照 →支援者や支援団体、また、協力者やサポート回数が増加 ・複数機関による支援会議 ＊2022 年 9 月 30 日 生活困窮者支援体制整備連絡会からの招聘を受け参加（香川県健康福祉部健康福祉総務課生活福祉・法人指導グループ主催） （推薦者：香川県社会福祉協議会） ・他機関による支援会議を行って、包括的な支援を行ったケースの数 →維持。教育委員会が参加しての個別支援会議が始まろうとしている(福祉課による日程調整中で 10 月中に開催予定) ・子ども・若者とその家族の課題に対する支援組織、支援者、協力団体、協力者や地域のサポートの回数。 →以下の通り。(但し、みんなの島のおむすびネットワークは、更新中) ・3 年目に入り、当地の良さに気づくことが多くなった。 ・過疎地域であるからこそ、その良さを人的能力などに寄らない新しい角度から見直し、細かな個別対応ができる。 また、ピンポイントで、きめの細やかな対応ができる。 ・生活者の視点でとらえれば、誰でも活躍できる機会が多い。 ・過疎であるがゆえに、志を同じくする者同士の連携が取りやすく。賛同者とつながると、協働体制をとれる時間が短い(速い)。

年月	居場所		こども宅食	農園	はこぶよ	てくてく 居宅介護事業	相談	送迎サポート	みんなの島のおむすびネットワーク	ゆるりと 子育てカフェ	寄付件数	シェルター・レンタル	スタッフ研修	ニーズ調査	WAM	イベント・その他	連携回数	コワーキング	学習支援		合計
①合計 2022年 4～9月半期	261	846	1298	0	140	0	56	23	0	0	4	51	28	70	67	185	39	131	16	0	3215
年間比較 (半期予想計)	増加	増加	増加	5	増加	増加	増加	増加	増加	本年なし	集計途中	約同数	増加	増加	増加		増加	増加	10月開始	減数	増加の見込み
②2021年度 年間合計	429	1461	1737	2022 新設	110	2022 増収	89	23	2022 新設	141 ★	★	115	22	0	新設	2022 新設	66	2022 新設	約24	本年無 @ポコ ★	未知

【その他事例報告等所感】

1. 当会に通っている精神障害者の方が、第 51 回香川県精神保健福祉大会で、行政から選ばれたピアサポーターとして登壇した。11 月にネットで配信予定だが、9 月に録画撮りを行っている。その際に「ピアサポートとして当会の子ども食堂を手伝っている」と発信したという。これまで、当会の「当事者が当事者を支える」というピアサポート的な運営方法が「ピアサポート」と呼べるのかどうか、何度も思考を巡らせていたが、このような形で、行政主催の公の場での発信が行われた意義は、大変大きいと考える。
2. 今夏より、若者クラブが自分たちの意志で発足した。彼らの運営による「(木)の居場所」を「幸せごはん会」と命名しアップデートする。また、同クラブによるメルカリサイトでの販売が好スタートを切っているため、今後の発展が期待される。
3. 2023 年度 4 月以降の団体自立の一助に向けて「加工部」が発足した。島内の寄付品(柑橘類や畑の作物サツマイモ、また、海産物など)を加工し、販売を模索する。試作品製作中。
4. ある利用者の言葉：お疲れ様(bow)人形劇感動やった。最後の歌は、肩の力抜いていいよ。たまには、頑張らないでいい日もあっていいんよなって考えさせられたよ。毎日があっという間で、3 人(子ども:岡注釈)の早すぎる成長に一緒に居れる時間はって考えながら、頑張ってる毎日。また、相談、つまずいた時は話聞いてください。

5. ある地域ボランティアの言葉：久しぶりにおチビちゃん達と作業させてもらって心地よい疲れでした。それにしても調理師のＳさんの完璧な準備のお陰で手順よく出来たことに感謝です。高校生さん達にとつてはいい体験になるでしよう。私にとつても学びになりました。ボランティアＡさんの子供たちへのご指導が理にかなっていて、最近は、核家族なので、まるで、子供たちのばあばみたいで、とても面白かったし、いいこと、悪いことのケジメを教えていて、素晴らしかったです。どうもありがとうございました♫(「ところてん作り」に参加して)

   ※ところてんを作るために、大潮の日の干潮時をめがけて、海にてんぐさを採りに行くところから、子どもたちに体験してもらいました。海で取った海藻が、美味しいところてんやみつ豆になる体験を経験してもらいました。調理師のＳさんは、郷土料理を子どもたちに伝承したいと、様々な企画を立て、子供たちの成長を支えてくれている頼もしい助っ人です)

6. 世の中では、全国旅行支援が始まりましたが、生活することが精いっぱいの当会利用者の方々とは、アフターコロナの旅行の話なんて、まだまだできないという状況があります。

7. 再婚者の紹介を求められることがしばしばあり、男女の出会いのきっかけの場になる場合がある。その中のある１組の出会いは、子どもたちに大きな恵みをもたらした。離婚後、苦労を重ねて当会にたどりついたあるひとり親が「一人ではない」と感じたことで、苦労はあるものの、生活の安定がもたらされ、それぞれの子どもたちが自立の道を歩みだした。「子育ての苦労を一人で担わなくてよくなった。安心感が全然違う」とは、シングルの親の言葉である。

8. 貧困の連鎖が起こっている地域で、居場所活動を展開してきたが故に、何故、今、この状況に陥っているのかということが見えてきた。救われるべきは、保護者やまたその保護者(祖父母)たちの子ども時代だったのだと痛感する。そして現に今、その地域に暮らす若者たちや保護者の声を聞くにつけ、子どもが自立できず、家族の社会保障の代替えとなっていく、その地域なりの考え方や判断基準が見えてくるようになった。

   （自分がそうしてもらえなかったがために）子離れできない保護者の考え方や言動を目の当たりにし、どうすれば、保護者が安心して子どもたちを自立させられるのか、また、子どもたちが願う自立が叶い、社会参加を果たしていけるのか、日々、模索が続いている。そのような中、保護者自身が安心して「困っている」と言え、自らの思いを周囲に発信できるような地域環境や社会のしくみが必要だということが分かってきた。自己評価が低いことによる自信の無さが、行政の窓口への距離を遠いものにしている。社会的な第三者に助けを求められず、子どもに依存せざるを得ず、その結果として子どもたちの自立が阻まれているという実態がある。困っている保護者が、窓口まで行け、相談できたあかつきには、例えば、税金の控除を受けられるといったこと等や、また、「気軽にきてください」と申請主義のみに徹しない、サービス業的なアウトリーチを取れる対応ができる行政として存在できる社会制度が必要で

ある。それら、為政者側のリフレーミングが、少子化を食い止める早道の一助であると考えられる。

　そのような観点から、当会では、信頼関係を築く手段の第 1 歩として「NO]や「嫌だ」「それは違う」と言ってください。また、「自分らしく、言いたいことを言ってもらっていいですよ」ということをまずもって、保護者に伝えているという現状がある。

9. 事例 A 君の場合：

A 君のお父さんは、A 君が小さい頃にお母さんと別れたため、幼少時から「母」無く育った彼は、これまで常に身体の不定愁訴を訴えている。自分の心身を厭うことを誰からも学ばず育ってきたようだった。身体のあそこが痛い。脈が速い。お腹が痛い。息ができない…等々の訴えが続き、その都度丁寧に関わり、保険を所持していなかったため、その取得から始めて病院まで付き添い、スタッフ皆で、有言不言に「大丈夫だよ」のシャワーを浴びせ続けるような対応を行っている。最近も、低体温と低酸素が細胞の癌化を招くと伝えたときに「それは自分だ。手足の先が冷たい。癌になるかも」と不安を発信したため、「今から生活習慣を改めたら大丈夫！まだ若いから！入浴時に温かいお湯につかるとか…云々」と、ようやく視点を前に向けた話ができるきっかけを得た。ここにきてようやく、自分の身体を大事にする方法に目が向けられるまでの段階に来たことを喜んだ。私(報告者)が考える「±0 ライン」に、どんどん近づいていることを感じている。これからは彼と共に、その人生をプラス思考で生きる方向に視点を転換させていく支援を行っていく。ここまで来るのに 2 年を要している。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：車輌に貼り付けている。また、常に口頭や表示文言などで休眠預金事業のことを発信している。

2.　広報
1.　メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・2022 年 7 月ぐらいＪＡ共済連香川のホームページ及びＪＡ共済ニュースでの写真掲載 ・2022 年 7 月 8 日：毎日新聞（四国版） ・2022 年 10 月 21 日：読売新聞(香川県版)掲載 2.　広報制作物等： ・パンフレットリニューアル ・2022 年 9 月オンライン寄付サイト完成 https://congrant.com/project/hottospace/5381 3.　報告書等 ・↓(2022 年 10 月 21 日以降公開 OK。それまでは非公開で、との通達あり) ◆公益財団法人　明日の日本を創る協会　http://www.ashita.or.jp/prize/ 「あしたのまち・くらしづくり活動賞」主催者賞受賞(応募者 206 団体中) 講評：子どもの貧困や虐待など重大な今日的社会問題に地域をあげて取り組み、多くの子どもたちに活動をつないでいる。 包摂社会づくりのモデル的手法である。 ・子育てアンケート(回答数約 70 件)現在集計中 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ・2022 年 9 月 4 日　子育て座談会開催

添付資料

活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）